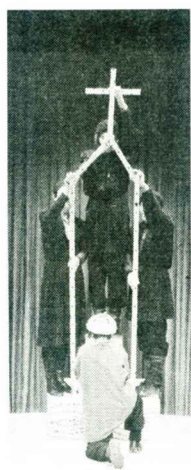


# 子どもも大人も大興奮

「人は何で生きるか」の一場面



“教会”で祈る

「児童演劇がこれほど  
のものとは……」観客のひ  
とりは、芝居の印象を率  
直に語った。

また、ある母親は「うち  
の子は、劇団四季を観に  
行ったときは寝ていたの  
に、今日はずっと集中し

て観ていた」と話した。

この日、トルストイの  
民話集をもとにした4つ  
のお話しからなる音楽劇

「レフおじいさんの童話

劇団あとも  
調布公演

## 「レフおじいさんの童話の森にて」

の森にて」の世界に、観客  
は、子ども大人も完全に  
引き込まれていた。

あとむの芝居は、見る  
ものの想像力をかき立て

時には人間そのものが舞  
台美術の一部と化する。

人形も重要な役割を果  
たす。「人は何で生きる  
か」では、母親は女優が演

音楽は全てオリジナ  
ル。俳優たちが演奏し、歌  
い、そして踊る。

実によく作り込まれた  
脚本と演出、音楽、演技に  
観客の反応が加わり一つ  
の作品が出来上がる。

主催した調布粕江支部

る。例えば、板や箱、布な  
どを組み合わせて様々な  
ものを表現する。「木立」  
が次の瞬間「扉」に、「椅  
子」が「ベッド」になる。

じるが、娘二人は人形。後  
ろで俳優たちが操ってい  
るのだが、その生き生き  
とした動きは、本当に「演  
じている」かのようだ。

は、「大変だったが、いい  
物を紹介出来て嬉しい。  
観客の反応もすばらしい  
だった。もう一度出来たら」  
と話している。